



## 名門女子校のエレガントな手芸サロン

### 広島女学院

<https://www.hjs.ed.jp/>

### PTA手芸品製作委員会



それぞれの手芸品からは、想いを形にすることの大切さが感じられる。ものづくりへのワクワク感からか、手芸委員のみなさんがとてもキラキラされていたのが印象的。これらの作品、生徒たちへの卒業記念品としてもぴったり！

企画特集のテーマである「発想力と表現力」は何も生徒たちの取り組みに限ったことではありません。学校と家庭との有機的な繋がりもまた、私学の魅力の一つです。広島女学院PTAの活動の中でも、特に人気のある手芸委員の皆さんに集まつていただきました。

現在、手芸品製作委員会では、代表・書記・会計の三役と9名の委員が、「ベア」「ビーズ人形」「布人形」と大きく三つのパートに分かれで製作活動をしています。文化祭バザーで販売される人形たちは長蛇の列ができるほどの人気で、毎年、心待ちにされている方が多いと言います。それぞれの担当がアイデアを持ち寄って自主的に取り組む様子は、まさに私学ならではのサロンといった雰囲気でした。

「今年は新型コロナウイルスの感染拡大によって開催することができませんでしたが、本来であれば一学期の間に保護者を対象とした製作会を中学チャペルで開催します。これは、私たちが作った『女学院

人形』のキットを使って製作してもらう場な

のですが、学年を問わず、ここで興味を持つてくれた方々が委員になってくれますので、アットホームな雰囲気ができあがるのだと思います」（書記・森志奈子さん／高1保護者／右写真前列右から2人目）

ふだんの活動では、手芸品を製作しながら先輩ママと後輩ママとの間で、わが子が学校生活をおくる上でのアドバイスや意見交換などもあるそうで、その内容は授業のフォローや家庭学習でのサポート、宿泊行事の持ち物に至るまで、実に様々だと思います。

「コロナ禍での半年間は学校に集まることは避け、それぞれが自宅で製作してきました。今年度は文化祭バザーでの一斉販売も中止となり、抽選販売という形となってしましました。でも、久しぶりにメンバーが集まる、ソーシャルディスタンスに配慮したりマスク越しではありますが、やはり気持ちは和気あいどになりますね」（委員代表・平田真澄さん／中3保護者／前列左から2人目）

仲間と会えない時間、物理的な距離感はあったものの、その分だけ作るものに工夫を凝らし、愛情を注ぎ込んで出来上がった品々には、これまで以上にアイデアがたくさん詰まっていました。

「ベアの生地は、生徒たちが使ったカーディガンやコートなどリサイクルしたもので、毎年デザインも変えていきますので、楽しんで待ち遠しいと言つてくださる方がいらっしゃるのは、作り手として本当に嬉しいことですね。『コートベア』には、専用のフード付きコートも付属品として用意してあるのですが、フードをかぶつてもちゃんと耳が出る



1. 撮影用マットや背景素材を常備するあたりはさすが。同校のホームページではPTA活動の一環として「手芸品製作委員会通信」がアップされている。 2. こだわりのポイントを解説する、ベア担当の佐々木さん。 3. 「ふだんから雑貨屋などもよくのぞますよ」と代表の平田さん



ように工夫しているんですよ」（ベア担当・佐々木秀子さん・中3保護者／前列右端）  
「カーディガンベア」は、一枚のカーティガンから三体作られるそうで、実はそのうちの一本にだけ足裏に校章の刺繡が入っていて、これがとてもレアなのだとか。

数種類のベアのほか、一つひとつ個性が際立つフィギュアタイプの「あやめちゃん人形」、女学院の制服をまとった小さな「ビーズ人形」、「布人形」は制服のスカートやブラウスをリサイクルした軍手人形で、紅茶でほんのりと染められています。いずれも、製作者の想いが込められているのです。  
さて、気になるのがこれら手芸品の売り上げですが……。

「文化祭バザーで販売した手芸品や、キットとして製作し販売した売り上げは、すべてPTAに寄付します。子どもたちの教育環境として必要なものを購入する際に、資金のお手伝いができればと思って取り組んでいます。手芸品製作委員会で必要な経費はPTAより一定金額を毎年いただいて、使用しなかつた分は返金するという仕組みで行っています。活動はすべてボランティアで行っているんです」（森志奈子さん）

2012年から正式にスタートした、この手芸品製作委員会。実は、ご令嬢が女学院を卒業した後も、メンバー間での交流が続くことも多いと言います。

今後、これら手芸品の数々を校内にディスプレイすることも検討しているようです。学校説明会やオープンキャンパス、文化祭など、訪問した際にはかわいい人形がお出迎えをしてくれるかもしませんよ。